

ICSE の国際会議に参加し研究成果を発表しました（2016/12/7-11）

テーマ：地域危険性評価、建物特性、ハザードマップ、ヤンゴン
場所：ヤンゴン工科大学（ミャンマー連邦共和国、ヤンゴン）

2016年12月10日から11日にかけて、ミャンマーのヤンゴン工科大学(YTU)において、The 7th International Conference on Science and Engineering (ICSE)が開催されました。本国際会議は、主にアジア諸国の研究者や技術者が最新の科学技術に関する分野について発表、議論することを目的として年に一度開催されており、当研究所の村尾修教授（地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野）が招聘され、「Tentative Building Vulnerability Assessment of Yangon」と題して研究成果を発表しました。

村尾教授らのグループは、SATREPS（地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム）「Development of a Comprehensive Disaster Resilience System and Collaboration Platform in Myanmar」プロジェクトの中で、ヤンゴンにおける地震に対する建物倒壊危険性の評価を担っています。ヤンゴン市は東京都のように建物の属性や地盤情報などのデータが整備されているわけではないため、どのように評価していくのが課題となっています。そこで本研究発表では、仮想の地盤データ、一部の地域の建物悉皆調査とリモートセンシングにより取得した情報に基づく建物情報などを用いた暫定的な建物倒壊危険性評価について報告しました。

また渡航期間中、本プロジェクトの一環として、サンチャン、ラサ、パペダン、ライン郡区にて建物構造と階数の悉皆調査を行いました。今後は、現地調査によるこれらのデータと既存のDBMデータを用いた比較分析を行う予定です。



発表の様子



チェアと共に招聘パネリストの記念写真



ICSE 開会式



サンチャン地区における建物悉皆調査